



前島 誠
主任臨床検査技師



高取 美香
副看護師長

勤務できる環境を整え、院内感染防止と地域医療体制維持の両立を図っている。

医療最前線 20ナとの闘い 県立中央病院から

(256)

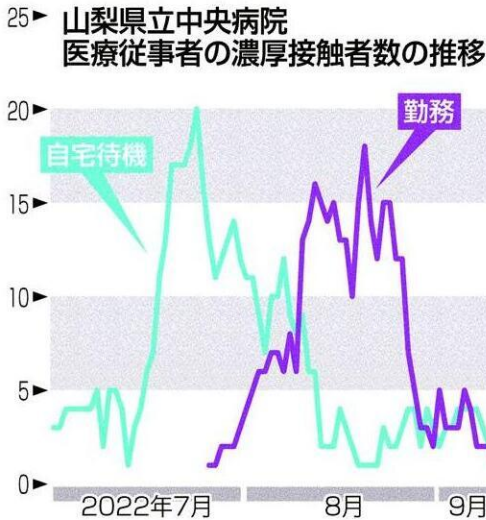
新型コロナウイルスの「第7波」で、全国的に医療従事者の感染・濃厚接触例が相次ぎ、診療制限を余儀なくされる病院が出た。山梨県立中央病院は、医療従事者が濃厚接触者となっても高精度のPCR検査を使って陰性を確認しながら

同院は新型コロナウイルスの

拡大以降、入院患者全員のPCR検査を実施。医療従事者も柔軟に検査を受けられるようにして、院内感染防止を徹底してきた。同院が実施したPCR検査は6万3822件、抗原検査2万7821件（8月末現在）。このうち、職員関連の検査は計8149件に上る。一方、第7波では全国で感染者が急増。同院も医療従事者が感染・濃厚接触となる事例が増えたため、7月26日、濃厚接触者は一定期間自宅待機としていた方針を変更。即日PCR検査で陰性を確認した上での出勤できる高精度のPCR検査を行った」と話すのは前島誠主任臨床検査技師。

職員に高精度PCR検査

感染防ぎ医療体制維持



最短1時間以内に結果が得られる機器をフル活用し、濃厚接触者となっても円滑に勤務できる体制を整えた。

院内感染制御の要である感染対策室は、医療従事者の中で感染者が出た場合、接触範囲を速やかに把握して検査を指示。こうした取り組みが実を結び、これまで院内での感染の広がりは確認されていない。

認できれば濃厚接触者となっても勤務できるとする国の決定を踏まえた対応だった。方針を変更する上で欠かせないポイントは正確に感染の有無を把握することだ。「低いウイルス量でも検出できる高精度のPCR検査を行った」と話すのは

濃厚接触者の勤務を可能にして以降、1日最大18人が自宅待機せずに職場で活躍。さらに、人手が足りなくなった病棟の応援に入るなど看護師の流動性を高めた結果、入院や外来を制限することなく通常診療を続けている。

感染対策室に所属し、感染管理認定看護師の資格を持つ高取美香副看護師長は「濃厚接触者の勤務はあくまで任意。子どもの看護や世話もあり自宅待機を選択するケースもある」と説明。「県民の命と健康を守る」最後の砦として、厳しい第7波の中でも地域医療体制を維持できている意義は大きい」と話す。

◇「未来を育む」シリーズは前回で終了。今回から、新型コロナウイルスの感染拡大による医療逼迫の危機に立ち向かい、奮闘する県立中央病院の取り組みを紹介する。Ⅱ第2、4木曜日に掲載します